

視点

子どもは地域の宝

震災の教訓を後世に

釜石市長 野田 武則



あの未曾有の被害をもたらした東日本大震災から早2年目。被災された方々もそれぞれの思いをもつて3月11日を迎えるとしております。当地釜石市をはじめ、被害を受けた三陸沿岸の市町村も、復旧・復興に全力を尽くしているところです。震災直後より全国から多大なるご支援とご協力を頂いてまいりました。まではこの場をお借りして深く御礼を申し上げます。

今回の震災により、釜石市では、千人以上の尊い命が犠牲になりましたが、子ども達の犠牲は少数に止まりました。

当市の小中学校の生徒は、置かれている状況に違いはあつたものの、自分の命は自分で守るという日ごろの教えに従つた避難行動により、多くの命が助かりました。授業中の生徒は、押し寄せてくる津波を背に、

高台から高台へと集団で避難行動をとり、下校していた生徒は、家庭に居る子、外で遊んでいる子それぞれがその場に応じた逃げるという判断をし、全員助かることができました。こうした避難行動は全国に紹介され、『釜石の奇跡』とまで言われております。これは「想定を信じる」、「率先避難者たれ」、「最善を尽くせ」の三原則を守るという防災教育を受けてきた成果と言えます。

『釜石の奇跡』は、小中学校の生徒のみならず、実は幼稚園と保育園の子ども達も助かっているという事実があります。当市の幼児教育施設は5ヶ所が津波の被害を受け、津波の襲来時が降園時間と重なった園もあり、一歩間違えれば大惨事となるところでしたが、園長の適切な判断と日頃の避難訓練の成果により、多くの子ども達の命が救われました。

震災直後は、命からがら避難をして、厳しい環境の避難所生活から仮設住宅へ移り住むことができたものの、子育てには十分な環境とは言えない状況下にありました。家族を失い家を流され、瓦礫の山と化した住み慣れたまちを目にした子ども達が受けたショックは計り知れないものがあります。そのような状況の中でも、二度とこのような悲劇を繰り返さないまちづくりに取り組まなければならぬという決意をし、震災の反省と教訓を後世に伝えるとともに、全国に発信をしなければならないと思つております。

全国的に、子ども達を取り巻く家庭環境や、幼稚園・保育園における環境は必ずしも良好な状況にありません。特に教諭や保育士の改善されない待遇にみられるところです。次の世代を担う子ども達にこそ、視点を向けなければならないと思います。子どもを中心とした政策展開、子どもに優先的に価値観を育む新たな社会構造が今まさに求められています。

東海・東南海・南海地震は短時間に襲来すると言われております。東日本大震災における津波は襲来まで数十分の時間があつたにもかかわらず、これほどの甚大な被害がありましたので、ぜひ今回の教訓を生かし、できるだけ被害を最小限に留めよう早急な対策が求められていると思います。今回の経験により、改めて津波の恐ろしさを実感するとともに、二度とこのような悲劇を繰り返さないまちづくりに取り組まなければならぬという決意をし、震災の反省と教訓を後世に伝えるとともに、全国に発信をしなければならぬ

被災した団体から

命の大切さを一層深めたい

(社) 岩手県私立幼稚園連合会会長 坂本 洋

千年に一度とも言われる東日本大震災から2年目の新年を迎えました。私どもはこの2年間で、災害体験で何を教訓として学び今後の防災に対する備えは何か、幼い命を大切に守る危機管理の心構えとは等、これまでの漫然とした防災意識を反省する機会を得ました。一旦ことが起こったとき（危機場面）いかに初期対応が大事で被害を最小限にとどめるか。預かる命を最優先に安全を守れるか。予想外のできごとへの防災・避難のマニュアル、それにに基づく日頃の訓練や備えです。それを保護者にもお伝えし理解を深めていただき、万が一には連携し対応する意識の大切さを認識しました。

また、連合会の対応としてもIT利用によるポータルサイト構築で、関係者の情報や安否確認、園バス運

行の路線通過確認を園と保護者自身ができるサイト等の利用を、県連独自に活用できる方法を試験運用するまでに至りました（岩手県立大学リフトウエア情報学部・菅原研究室の全面協力）。次に大災害を体験した幼児の心のケアですが、沿岸被災地では多くの施設が流失破壊され、また多くの身近な人々の死に直面しました。未だに仮設住宅での生活を余儀なくされ社会的施設資源も復旧せず不便な生活の中で、災害の恐怖を時折思い出す状況だと言われます。

2011年岩手県大槌町参照）
また、その取り組みとして岩手県私立幼稚園全園が、その時どう対応したか、被害や課題は何か等をまとめた「東日本大震災 岩手県私立

東日本大震災から2年が経とうとしています。今号では、特集として被災県の団体と被災された幼稚園から、それぞれのその後をお知らせいただきました。
一日も早い復旧・復興を願います。

(調査広報委員会)

多くのご支援に改めて御礼

(社) 宮城県私立幼稚園連合会副理事長 佐藤 宏郎

東日本大震災から2年を迎えようとしています。この2年を振り返り、あつという間と思う人、時間が止まつたまま未だ踏み出せない人さまざまです。余震が続く中、幼稚園を再開したのですが、久しぶりの幼稚園で園児たちが嬉しそうに園庭を駆け回る姿に「ああ、やはり子どもたちのため幼稚園が必要なのだ」と強く思ったものでした。その意味では、むしろ子どもたちに後押しされた恐怖感と不自由さを、子どもなりに心の体験後遺としてあるようで、何気ない普段の生活の中で暗闇を嫌い少しの揺れにも敏感に反応

震災後、全国各地からたくさん義捐金や支援物資、そしてボランティアや支援活動の方々に物的・人的に助けていただきました。海外からも

特集 東日本大震災から2年を経て



ドイツ、台湾、シンガポール他多くのご支援をいただきました。特にユニセフを通じて全壊・流失した6園の内3園（気仙沼・葦の芽星屋幼稚園、南三陸町・あさひ幼稚園、山元・ふじ幼稚園）が園舎を再建できたことは特筆すべきことです。サッカー日本代表キヤブテン長谷部誠選手は、直接あさひ幼稚園を訪れ、子どもたちとサッカーを通じ励ましの言葉をかけ、本の印税とチャリティーイベントの収益金をユニセフを通じて、園舎再建の資金として寄贈してくださいましたそうです。

被災地支援を一過性のものにしないため、岐阜県多治見市の陶芸家・安藤勝美氏は、美濃焼でできた折り

鶴1万羽プロジェクトを立ち上げ、自ら被災園を訪ね、園児たちに折り鶴の指導をし、そして焼き物としてふじ幼稚園）が園舎を再建できたことはお札の手紙を書く、という「絆」を結ぶ支援活動を続けていただいています。今でも「園児からのお札の手紙が届き、逆にこちらが励まされました」とのお手紙が園に届きました。被災地の子どもたちに絵本のプレゼントをという善意を受け、真宗大谷派宗務総長・藤井淨行様より、

鶴1万羽プロジェクトを立ち上げ、自ら被災園を訪ね、園児たちに折り鶴の指導をし、そして焼き物としてふじ幼稚園）が園舎を再建できたことはお札の手紙を書く、という「絆」を結ぶ支援活動を続けていただいています。今でも「園児からのお札の手紙が届き、逆にこちらが励まされました」とのお手紙が園に届きました。被災地の子どもたちに絵本のプレゼントをという善意を受け、真宗大谷派宗務総長・藤井淨行様より、

宮城・岩手29カ園を代表して受け取らせていただきました。これには全

日私幼連の香川敬会長はじめ参議院議員・藤谷光信先生に遠路お越しいただき贈呈式を執り行なうことができました（写真）。この他数多くの支援があつたことに対し改めて御礼申しあげます。ご支援をいただいた御恩に報いるため、宮私幼会員一同全力を尽くす覚悟であることをお伝えし、御札の言葉とさせていただき

ます。（名取市・なとり幼稚園）

目に見えない放射能との闘い

（社）福島県全私立幼稚園協会理事長 関 章信

一昨年の3月11日に津波で直接被害が1園、地震での全壊が1園でした。地震による何らかの被害があつた幼稚園もありましたが、運営自体は問題がないということでした。

しかし、目に見えない放射能の被害で、昨年は卒園式・入園式のできない幼稚園が多数あり、その中で園庭の除染等に追われ、同時に放射能というものの自体が保護者に不安感を与えるました。県内では、3万人以上

宮城・岩手29カ園を代表して受け取らせていただきました。これには全て開園しています。しかし、地元の住民が戻らないことで、園児数が減少してしまい、努力しながらやつている幼稚園が3園、園舎も残って土地もあるが、放射能で入れないという幼稚園が4園あります。未だに放射能の影響で再開できずにいるということは、決して忘れないでいてほしいと思います。

本協会も原子力発電所事故の損害賠償窓口として、東京電力と交渉している問題もありますが、少しずつ解決しています。また、財産的な部分については、これから話ということになっています。今後何年、目に見えない放射能と闘い続けなければいけないのだろうかと、先生方はいまだに困惑しています。目に見えない放射能に対する対応が、保育を含めいろいろな勉強にはなりましたが、非常に難しい状況がまだまだあるというのが福島の現状です。

最後に、全国から温かいご支援をいただき御礼を申し上げます。今後とも、引き続きのご支援をよろしくお願いします。

（福島市・福島めばえ幼稚園）

多くの教訓と危機管理

(社) 茨城県私立幼稚園連合会会長 橋本 幸雄

大震災から2年を迎えようとしています。

全国の皆様から物心両面にわたる、ご支援、ご声援にあらためて厚く御礼申し上げます。

平成7年の阪神・淡路大震災、平成16年の新潟中越大地震という経験を生かすべくもなく大きな災害を被つてしましましたが、実体験から多くの教訓と危機管理の重要性を再確認しました。

特に関連する様々な情報収集と情報伝達が危機管理に必要であることを学び、日頃の災害等に対する避難訓練、園と地域の連携、園内研修と園長のリーダーシップの大切さを感じました。

茨城県下、私立幼稚園202園のうち128園が被災してしまいました。県内で最も大きな被害、半壊以上立ち入り禁止の幼稚園が3園ありました。

2園は昨年9月と12月に再建復興にこぎつけ、新しい園舎で保育の日常が始まりました。もう1園は、近隣の建物を間借りして再建に向け今も奮闘中です。

このようにこの1年は災害からの復興に向け、連合会加盟園一丸とな

り、情報交換を密に力を合わせた年でもありました。人的被害が1人も出なかつたことは不幸中の幸いでし
た（東北3県の園と比較はできませ
んが）。しかし、わが県でも一步間違えれば人的被害があつたかもしれません。

後日、大きな被害を受けた園を見舞い園長先生から被害状況の話を伺つたとき、園児に怪我人もしくはそれ以上のことがあつたかも知れないといました。崩れ落ちる園舎、園庭へ近隣の家の屋根瓦の落下、背筋が寒くなりました。

しかし、園長先生をはじめ先生方

が一丸となり、あの大地震から1人の園児も怪我せることなく避難できましたのです。

園長先生の判断と日頃職員間で話されていましたが、大切な命を守れたのだと感じました。

今でも福島第一原子力発電所爆発による放射能被害の影響がまだまだの園児も怪我せることなく避難で影を落とし、県内地域によつては放射線量の数値に微妙な地域もあり、幼児の体内被曝の検査を受けるようになりました。この件に関するところだと感じました。

今でも福島第一原子力発電所爆発

ります。（つくば市・栄幼稚園）

一日も早い完全復興を願う

(社) 栃木県幼稚園連合会理事長 石嶋 勇

3月11日午後2時46分、観測史上最大のマグニチュード9を記録する

東日本大震災が発生。停電・火災・津波などの被害が拡大。未曾有の大震災をもたらしました。

あれから2年も経過している今も愛する人や仲間を探し続けてい

る方々がいらっしゃいます。住む家も流され、家族も亡くし避難所で

震災を行動する」ことが、被災された方々への最大の支援であります。

災害の場合、「できるだけスピードで行動する」ということが、被災された方々への最大の支援であります。國の強いリーダーシップと迅速な対応を國民の一人として要望いたします。

震災をもたらしました。

震災をもたらしました。

震災をもたらしました。

震災をもたらしました。

震災をもたらしました。

特集 東日本大震災から2年を経て

するための貴重なエネルギーを浪費してきました。限りある資源であります。

今後は、これらを反省して「感謝する心」「物を大切にする心」を強く持つて、皆で力を合わせて一日も早い復興を実現させなければなりません。

栃木県でも、福島原発の事故による被害は甚大であります。本県が誇る世界的な観光地においても放射能汚染に苦しんでいます。幼稚園や小

中学校その他の施設では、市が除染実施計画を策定。その計画に基づき幼稚園などの施設を除染、その結果を公表しています。(国の目標基準値)1時間当たり0・23マイクロシーベルトを上回っていました。25の施設では除染後すべて下回る数値になりました。

除染作業は、校庭・園庭の表土を3cmはぎ取り、新しい土を覆土します。除染した表土は、敷地内に遮水シートで包み埋設します。これにより、0・35マイクロシーベルトと最も高かつた小学校は、0・14マイクロシーベルトと半分以下になりました。

た。除染後すべての施設が目標値(国

の基準)を下回りました。このよう

に県内の市町村ごとに除染が実施さ

れています。

まだまだ風評被害はあります、東日本大震災に負けないためにも、震災からの一日も早い完全復興に向けて皆様のご理解ご援助をお願い申しあげます。

お 礼

(一社)全千葉県私立幼稚園連合会会長 森島 弘道

東日本大震災の被災県として全日私幼連の皆様より多大なご支援をいたしました。心より感謝申し上げます。

千葉県では、佐原地区、幕張地区、浦安地区で被害を受けましたが、それぞの現在の状況をご報告いたし

ます。

★全国の皆様へお願ひ

現在は、回復傾向にありますが、震災以前のような賑わいにはまだまだ至っていません。

東北地方や本県の観光地を安心して旅していた、だきたいと願っています。

(宇都宮市・すずめ幼稚園)

東北地方や本県の観光地を安心して旅していた、だきたいと願っています。

道路を下げてからでないと改修できない部分があります。道路の所有者である企業庁に依頼をしておりますが、なかなか対応していただけない状態です。本復旧は企業庁の対応次第になりますが、震災直後と比べると、とても良くなっていることがあります。

その他は、ほぼ改修済みです。ありがとうございました。

全千葉県私立幼稚園連合会では、震災後、岩手県沿岸部を視察させていただきました。陸前高田市から大船渡市、釜石市、大槌町、山田町、宮古市と陸中海岸沿いの被災地を視察し、あらためて地震に伴う津波の被害の大きさと、その後の被災地の実情を知りました。

息の長い支援の必要を痛感しております。私ども全千葉県私立幼稚園連合会としても、継続して支援をさせていただきたいと思います。

(千葉市・千葉聖心幼稚園)



▶仮設プレハブ園舎で保育

震災から早2年が経とうとしている。あの日の地獄絵図や人々の阿鼻叫喚、そして、その後の連日にわたる遺体安置所での遺体確認に翻弄し、現世とは信じがたい無残な光景は今でもはつきりと脳裏に焼き付いていて、その記憶はいささかも薄れることはあります。むしろ、時の経過とともに、犠牲者に対する後悔や自責の念と、生活基盤を失った現状への将来不安が複雑に入り混じった思いが増幅してきているということが、現在の正直な思いです。

一方で、被災した園の復旧、再建の状況はというと、現在は被災した園地から遠く離れた山間部に、一時的に土地を借用し仮設プレハブ園舎で保育を行なつており、一応の復旧はなされたところではあります。

困難な課題と向きあつて

岩手県

震災から早2年が経とうとしている。あの日の地獄絵図や人々の

阿鼻叫喚、そして、その後の連日にわたる遺体安置所での遺体確認に翻弄し、現世とは信じがたい無残な光

景は今でもはつきりと脳裏に焼き付いていて、その記憶はいささかも薄

れることはあります。むしろ、時の経過とともに、犠牲者に対する後悔や自責の念と、生活基盤を失つた現状への将来不安が複雑に入り混じった思いが増幅してきているとい

うことが、現在の正直な思いです。

皆様のご支援で再開が

宮城県

私が理事長をしている桜木花園幼稚園と八幡花園幼稚園（園長兼任）、両園共に津波の被害を受けましたので記載させていただきます。

平成23年3月11日午後2時46分、非常に大きな揺れに見舞われ、それから40～50分ほどして桜木では「津波が来た」との叫び声にあわてて園

被災した幼稚園から

あくまで臨時の特例措置ということであり、仮設園舎の建築許可や土地の農地転用許可等、一定（2年）の期限の定めがあり、ほぼ1年が経過したところです。よって、残り1年で本園舎建設へ動かなければならない状況の中につけて、町の復興計画の進捗はままならず、依然として荒廃した町の跡地が広がる現状の下、今後の再建に向けて園児の安全面や、保護者が安心して子どもを託せる将来の園経営を考える時、津波浸水を

経験した旧園舎地を離れ、より安全な場所への移転新築を含め検討しているところですが、長期借入の残債を抱えた二重ローン問題が大きな壁となつて、こちらが立てばあちらが立たずといった具合で、計画の立案が困難な現状です。

一般論として、資金的な現実性を踏まえた従来の地での再建と、安全

性を求めた津波浸水区域外での理想的再建とがありますが、歴史的に繰り返し津波が襲来する地域性を考慮すると、より困難な課題を持つ後者

を敢えて選択し、二度と同じような惨事に巻き込まれない、安心、安全な幼児の教育環境の構築を成したいと強く思う次第です。（岩手県大槌町・みどり幼稚園園長／佐々木栄光）

特集 東日本大震災から2年を経て



▶自衛隊のボートで救出された

児を2階まで避難させました。近所の方も含めて180名ほどが水、食べ物、暖房もなく雪が降る寒い一夜を過ごし、翌日午後に自衛隊のボートで救出されました。八幡では、園庭に避難していた園児、教職員などを2階に避難させ、残った給食を食べながら一夜を過ごしました。残念ながら、桜木では保護者と一緒に帰った園児が3名犠牲になりました。

津波により桜木花園幼稚園が床上190cm、八幡花園幼稚園が床上8

cm冠水しましたが、震災復旧事業費（土地・建物・工作物・設備）の1／2が国、2／6が県、計5／6の公的補助金が交付され、保険金や義捐金も加味されました。

震災直後に応急のクリーニングを済ませ、4月1日から八幡花園幼稚園で両園合同の預かり保育を再開し、4月20日には両園共に保育を開することができます。ただ、桜木花園幼稚園は1階の床・壁全面張り替え、八幡花園幼稚園も2／3の床張り替えを余儀なくされたので、夏休みと冬休みに本格的な復旧工事

が行なわれ、現在ほぼ震災以前に復旧しています。園児たちは元気いっぱいですが、再開直後には地震・津波ごっこをしたり、最近の強い地震にパニックを起こす園児もあり、まだ心に深い傷を残しています。

終わりに、全日本私立幼稚園連合会及び加盟園の皆様には多大なる義捐金、支援物資、いろいろな励ましをいただき深く感謝申し上げます。また、多くのボランティアの方々には感謝の気持ちで一杯です。

（宮城県多賀城市・学校法人不磷寺 学園理事長／鎌田俊昭）

園の再開に感謝

福島県

東日本大震災に際しましては、全日本私立幼稚園連合会会員の皆様から多大のご支援をいただき、ありがとうございました。

当園では、地震・津波の園舎被害、在園園児の人的被害は無く、週明けからは普通に幼稚園を始められると思っていましたが、東京電力福島第一

原子力発電所事故により緊急時避難準備区域（30km圏内）に指定され、南相馬市民が全国各地に避難していました。

一原子力発電所事故により緊急時避難準備区域（30km圏内）に指定され、南相馬市民が全国各地に避難していました。

は230余名の園児で新年度をスタートすることとなっていました。やつと再開できたのは10月でした。再開時は20名の園児が元気に登園してきました。この日の感動は生涯忘れることがないと思います。

再開するまでの間、急遽業者に依頼した大規模な園庭の除染作業、先生方そして避難先から戻つてこられた保護者の皆様の暑い中の懸命な園舎内外の除染作業により、園児たちが生活する環境整備ができました。幼稚園は今、空間線量0・13μ

◀復旧後の幼稚園



S v 程度となっています。ただこの線量が安全かどうか……不安は拭いきません。

平成24年度は、幼稚園はたくさんの方々のご支援を受けながら行事や経験活動をどうにか行なってきました。ご支援をしてくださった方々の優しさは、子どもたちの心の中に感謝の心として位置づき、大切なものとして育つていると思います。園児

たちも少しずつではあります、避難先から戻ってきており、現在は84名が幼稚園生活を楽しんでいます。

ただ、南相馬市全体の子どもは震災前の30%程度しか戻っていません。インフラの整備、若者の帰還など、私たちでは解決できない問題が山積している現状では、将来を見た幼児教育の計画は立てられませんが、日々元気に登園してくる園児た

覚

悟

茨城県

今日も何事も無かつたかのように学園は園児の笑顔で満ち溢れています。早いもので東日本大震災から2年が経ちます。

当日、園舎は大きく揺れ園庭は亀裂が生じ噴水のように水が噴き出し、見る見るうちに園舎内に入ってきた。

園児は135名在籍しておりますが、翌日の卒園式準備のため、午前保育で50名の園児が残つており、教職員一同で隣地の広い寺境内へ抱き合つて、近隣家族20名と教職員23名で、停電、断水の中、ロウソクを立てて食事、体操用マットとカーテンを布団代わりにして一夜を過ごしました。

復興に希望を持つて

栃木県

今日も何事も無かつたかのように学園は園児の笑顔で満ち溢れています。早いもので東日本大震災から2年が経ちます。

周囲を見渡すと電柱はすべて傾き道路は陥没し、車の通行ができる状況でした。それでも保護者は歩きながら迎えに来られて、残つた園児は5名になりました。学園ホールへ

移り、近隣家族20名と教職員23名で、来事を逃げることなく、次世代の日本を支える子どもたちを護り育てる保育を頑張っていきます。

翌朝7時に市長と面談し園児の保橋本隆（茨城県潮来市・慈母幼稚園園長）

この原発事故で、相双方部私立幼稚園協会会員10園中4園がいつ再開せん。インフラの整備、若者の帰還など、私たちでは解決できない問題を改めて感謝しています。

できるか分からぬ状況にあります。そのことを思えば再開できたことを改めて感謝しています。（福島県南相馬市・青葉幼稚園理事長／安川正）

最後に全日私幼連会長の香川敬様をはじめ関係者の皆様に4月11日学園を訪ねていただき、御見舞金をじめご支援をいただき、誠にありがとうございました。

幼稚園連合会会長の橋本幸雄様をはじめ関係者の皆様に御見舞金ご支援をいただき、誠にありがとうございます。この百年千年に一回という出来事を逃げることなく、次世代の日本を支える子どもたちを護り育てる保育を頑張っていきます。

東日本大震災から2年が過ぎようとしています。当時の様子を思い出

しますと、2階の保育室で帰り仕度をしていた8名の園児と担任教師が

特集 東日本大震災から2年を経て

いました。平成23年3月11日午後2時46分頃、強い地震を感じました。

揺れが厳しく窓ガラスや天井が落ち、壁が崩れました。必死に園児たちを安全な園庭に誘導しました。

恐怖で、途中で屈んでしまう子もいました。幸い怪我をした者はいませんでした。保護者との連絡手段もないで防寒対策として、布団、毛布、職員の上着、スマックの重ね着をさせ、ブルーシートの上で待機。徐々に保護者が迎えに来はじめ、全員無事に帰宅しました。

そして園舎の復旧を至急建設会社に依頼し比較的早く復旧しました。園舎は昭和50年に新築した鉄骨2階建です。最近、耐震性能判定を依頼した結果、建て替えが望ましいとの判定でした。現在、平成25年度中に改築する準備を進めているところです。

地震とは直接関係はありませんが、2012年5月に真岡市郊外で竜巻により小学校が甚大な被害を受けました。昔から災害の少なかつた地域でしたが、この2つの災害で自然に対する安全な所は無いと感じて

いるところです。

終わりに全日私幼連、県幼連等に

対し義捐金のご支援をいただき深く

御礼申しあげます。
(栃木県真岡市・高ノ台幼稚園理事長／吉羽徹)

無我夢中の2年間

千葉県

の毎日でした。

その後、激甚災害被災地域に認定落差ができ固定遊具は傾きました。幸い人的被害はありませんでしたが、建物としては県内の幼稚園では最も被害が大きかつたそうです。

園庭のあちこちから地下水が噴き出し、その跡は巨大な蟻地獄の穴のよう。水が引くと今度は、粒子の細かい粘土質の砂は町中に砂嵐を巻き起こしました。連日、保護者の皆さんと液状化の砂を搬出し、ダンプで土を運んで人力で園庭を修復しました。電気は数日後に復旧しましたが、水道はゴールデンウイーク明けまでかかりました。半壊の鉄骨園舎を修繕し仮設トイレを使用して、4月中は午前中だけ保育を再開。無我夢中

の毎日でした。され、国及び千葉県の災害復旧補助金対象事業となりましたが、何よりも震災直後の混乱の中、全千私幼連の森島弘道会長らが被災状況の視察に見え「幼稚園、大丈夫ですかね」と掛けていた言葉に非常に勇気づけられ、復旧中の心の支えとなりました。またどこよりも早く連合会からの義捐金を拠出してくださり、工事費用に充てることができました。時期を同じくして全日私幼連の香川敬会長も見舞いにいらして激励してくださいました。

復旧までの長い道のりを支えてくださった多くの皆様に、紙面をお借りして心より御礼申しあげます。重ねて、まだまだ震災の爪痕の残る地域の方々の一日も早い復興をお祈りいたします。(千葉県香取市・佐原みどり幼稚園園長／永井信彦)



幼児教育の無償化実現に向けて大きな一步

幼稚園就園奨励費補助

第4階層単価62,200円、念願の平成21年度水準を回復

同時在園の第3子以降の負担割合が所得制限なしに

1月29日、平成25年度の政府予算案が閣議決定されました。

全日私幼連では、香川敬会長を中心的に、強力かつ懸命な予算運動を精力的に展開してきました。その結果がこの大きな成果に結びつきました。

今回は特に、幼稚園就園奨励費補助の第4階層の補助単価が

62,200円になり、全日私幼連の念願であった平成21年度の水準まで回復することができました。さらに、

就園奨励費補助の第3子以降の保護者負担割合について、同時に就園の場合の所得制限が無くなつたことによ

り、幼児教育の無償化実現に向けて大きな一歩が踏み出されたと考えられます。関係方面の国會議員の先生方や行政ご担当者の皆様方には、執行部一同心より厚く御礼申しあげます。私立幼稚園関係の主な内容は次のとおりです。

●私立高等学校等経常費助成費補助

学校の総額で前年度の予算額1,000億1,400万円から19億円増（対前年度比1・9%アップ）の102億1,400万円となりました。

そのうち一般補助分は5億1,400万円増（対前年度比0・6%アップ）の889億4,700万円に、特別補助分は、14億1,200万円増（対前年度比15・3%アップ）の106億3,600万円となりました。

〔経常費助成費補助・幼稚園分〕

経常費助成費補助の幼稚園分は、10億5,900万円の増額（対前年度比3・3%アップ）で、総額333億3,300万円となりました。幼稚園分のうち一般補助分は、3,900万円増（対前年度比0・2%アップ）の244億7,600万円。園児一人あたり単価は、前年度から1,58円増（対前年度比0・7%アップ）の228,000円となりました。

特別補助分は、10億2,000万円増（対前年度比13・0%アップ）の88億5,700万円が計上されました。

特別補助のうち、「子育て支援推進経費」は、1億6,400万円増（対前年度比3・5%アップ）の48億3,600万円となり、その内「預かり保育推進事業」は、1億6,400万円増（対前年度比4・7%アップ）の36億8,600万円。「幼稚園の子育て支援活動の推進」は、前年度と

同額の11億5,000万円となりました。また、「幼稚園特別支援教育経費」は、8億5,600万円増（対前年度比27・0%アップ）の40億2,100万円が計上されました。

●幼稚園就園奨励費補助

幼稚園就園奨励費補助は、総額で19億8,800万円増額（対前年度比9・2%アップ）の235億3,800万円となりました。補助単価は、第4階層が1,240円の増額で単価6,220円となり、平成21年度の水準に回復されました。第1階層から第3階層はそれぞれ3,000円の増額となりました。

多子世帯の負担軽減の拡充については、小学校3年生以下の兄姉のいる世帯の第2子以降の園児を対象とした負担軽減措置を拡充し、幼稚園に同時就園する第3子以降の園児について、保育所と同様に所得制限を撤廃することとなり、補助対象が拡大されます。

●私立幼稚園施設整備費補助

私立幼稚園施設整備費補助は、私立幼稚園施設整備費補助は、1億8,900万円増（対前年度比8・1%アップ）の25億5,000万円が計上されました。

平成25年度幼児教育関係予算（案）の概要

(単位：百万円)

区分	24年度 当初予算額	25年度 予算額(案)	比較増△減	備考
幼児教育課関係予算総額	21,621	23,591	1,970	
1. 幼稚園就園奨励費補助	21,550	23,538	1,988	
(1) 補助単価の引き上げ (階層区分) 【公立】 ・生活保護世帯、市町村民税非課税世帯、 市町村民税所得割非課税世帯(年収約270万円以下)				(H24) (H25(案)) (対前年度比)
【私立】 I 生活保護世帯 II 市町村民税非課税世帯 (市町村民税所得割非課税世帯含む)(年収約270万円以下) III 市町村民税所得割課税額(77,100円以下)世帯 (年収約360万円以下) IV 市町村民税所得割課税額(211,200円以下)世帯				226,200円 → 229,200円 (3,000円増) 196,200円 → 199,200円 (3,000円増) 112,200円 → 115,200円 (3,000円増) 49,800円 → 62,200円 (12,400円増) (年収約680万円以下)
※ 金額は、第1子の補助単価(年額)。 ※ 市町村民税所得割課税額(補助基準額)及び年収は、夫婦(片働き)と子ども2人の世帯の場合の金額であり、年収はおおまかな目安。 ※ 国庫補助は、子どもの人数等に応じて補助基準額を変動させ、多子世帯に配慮した「簡便な調整方式」(第2方式)の補助対象経費に対し実施。 ※ 幼稚園の保育料(入園料を含む)の平均単価(23年度)は年額で、公立79,000円(前年度同額)、私立308,000円(前年度3,000円増)である。				
(2) 多子世帯の負担軽減の拡充 小学校3年生以下の兄姉のいる世帯の第2子以降の園児を対象とした負担軽減措置を拡充し、幼稚園に同時就園する第3子以降の園児について、保育所と同様に所得制限を撤廃することとし、補助対象を拡大する。				
○幼稚園に同時就園している場合 第2子 半額(継続:上記階層区分に該当する場合) 第3子以降 無償(補助対象を拡大:所得制限を撤廃し全ての園児を補助対象化) ※無償となる保育料の上限は、平均単価(公立79,000円、私立308,000円)				
2. 幼稚園教育内容・方法の改善充実	21	20	△1	・幼稚園教育理解推進事業 20百万円
3. 質の高い幼児教育・保育の総合的提供等推進事業(新規)	0	34	34	・幼児教育の改善・充実調査研究 26百万円 ・子ども・子育て関連3法に基づく新制度の実施に係る調査研究等 7百万円
4. (前年度限りの経費) 幼児期からの「人間力」向上総合推進事業	50	0	△50	
【参考】				
1. 私立幼稚園施設整備費補助	2,317	2,505	189	※公立幼稚園施設整備費については、79,675百万円の内数
2. 私立高等学校等経常費助成費補助(幼稚園分) (ア) 一般補助 (イ) 特別補助	32,274	33,333	1,059	
3. 緊急スクールカウンセラー等派遣事業	4,702 の内数	3,913 の内数	-	1. 子育て支援推進経費 4,672百万円→4,836百万円 ・預かり保育推進事業 3,522百万円→3,686百万円 ・幼稚園の子育て支援活動の推進 1,150百万円→1,150百万円 2. 幼稚園特別支援教育経費 3,165百万円→4,021百万円

※認定こども園の施設整備などを行う「安心こども基金」については、経済危機対応・地域活性化予備費(経済対策第2弾)において、136億円を積み増すとともに、事業実施期限を平成25年度末まで延長。

全日私幼連の会議

● 1・30 臨時常任理事会

幼児教育の無償化など協議

子ども・子育て関連3法の協議も

1月30日、東京・私学会館において、全日私幼連の臨時・常任理事会が開催され27人が出席しました。

香川敬会長のあいさつに続いて、

議長に村山十五副会長、議事録署名には児玉昭平常任理事、松下瑞應

常任理事が選任され、議事に入りました。

■報告案件…平成25年度政府予算について／坪井久也政策委員長から資料をもとに平成25年度の私立幼稚園

関係政府予算案についての報告がありました。

■協議案件1…子ども・子育て関連3法の制度設計の件／北條泰雅副会長から資料をもとに説明がなされ、協議が行なわれました。

■協議案件2…幼児教育無償化の件

／坪井政策委員長から資料をもとに説明があり、協議が行なわれました。

■協議案件3…今後の振興活動の件／坪井政策委員長から資料をもとに詳しい説明がなされ協議が行なわれました。

真宗興正派本山興正寺（真宗興正派）藤井淨行宗務総長から、亡くなられた園児さんたちを悼んで、という趣旨で7百万円の寄付の申し出があり、「いのちを大切にする文庫」として、宮城県岩手県の私立幼稚園28園への絵本の贈呈が実現いたしました。



▶ いのちを大切にする文庫を贈呈

説明があり、原案が議決され理事会に上程することとなりました。
■審議案件2…事務局諸規程の改定の件／田中総務委員長から資料とともに規程の変更ポイントの説明があり、原案が議決されました。

（総務委員長・田中辰実）

地区会会長会

1.18

1月18日、東京・私学会館において、全日私幼連の地区会会長会が開催されました。議長に北條泰雅副会長、議事録署名人には安家周一先生、園尾憲一先生が選任され議事に入りました。

会議では、今後の振興活動についての協議が行なわれ、子ども・子育て関連3法、幼児教育の無償化の方針などについての意見交換が行なわれました。
また、子どもがまんなかPROJECTの活動状況と現在までの協力金の状況が報告されました。

（総務委員長・田中辰実）

幼児教育の無償化実現を要望

関係予算確保の決議を採択

1月22日午後2時から、東京永田

町の自由民主党本部で幼児教育議員

連盟（会長：中曾根弘文参議院議員）

の総会が開かれ、国会議員61人（代

理含む）が出席。文部科学省からは、

布村幸彦初等中等教育局長、関靖直

大臣官房審議官、小松親次郎私学部

長、蝦名喜之幼児教育課長、森田正

信私学助成課長らが出席。全日私幼

連からは、香川敬会長、北條泰雅副

会長、田中雅道（全日私幼研究機構

理事長等）が出席しました。

会合では、中曾根会長のあいさつ

に統いて、文部科学省から予算説明

が行なわれた後、全日私幼連から、

幼児教育の無償化など今後の幼児教

育の振興にかかる要望を行ないまし

た。質疑応答の後、「幼児教育関係

予算の確保等に関する決議」が採択

され、幼児教育の無償化を進めるこ

とについて、政府等へ申し入れを行

なつていくことが確認されました。

幼児教育は、教育基本法第十一條に規定するところ、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な意義を有するものであり、幼児教育の基盤の強化は、国や地域社会の永続的発展の重要な要素である。我が国が国際社会の中で引き続き活力を維持し繁栄していくためには、国家戦略として幼児教育の充実強化を図つていく必要がある。

このような観点から、我が党としては、党を挙げて幼児教育の無償化を進めるとともに幼児教育のさらなる振興を図つていくこととしており、その第一歩を記す平成二十五年度予算において、次の事項についての特段の配慮を求める。

下村文科相へ要望

1月22日、全私学連合（代表：清

家篤慶應義塾長）は文部科学省を訪

れ、下村博文文部科学大臣を表敬訪

問しました。全日私幼連からは、香

川敬会長が出席し、平成25年度政府

予算、幼児教育の無償化などについ

て要望を行ないました。

二、 教育費の負担軽減を通じた重要な子育て支援策である幼稚園就園奨励費補助について、該当世帯の最も多い第Ⅴ階層に係る国庫補助単価を平成二十二年度の水準への復元を図ること。また、少子化対策の観点からも、第三子の幼稚園就園奨励費補助に対する所得制限の撤廃や教育費の無償化等、多子世帯の負担軽減の一層の充実を図ること。

三、 子ども・子育て関連三法の実施に向け、幼稚園の果たしてきた役割と現状に鑑み、衆参両院での附帯決議にも十分配慮した制度の具体化を図ること。

四、 国家にとって国を支える人材育成は最重要課題である。人格形成に重要な意味を持つ幼児期に、全ての幼児が十分な教育を享受する機会を保障するためには、幼児教育の無償化の実現に向け取り組みを加速すること。

幼児教育議員連盟の総意に基づき、右議決する。

平成二十五年一月二十二日

財団法人全日本私立幼稚園教育研究機構

●平成24年度全国研究研修担当者会議開かれる

これから研究研修を協議

1月24日・25日
京都ガーデンパレス

黒田秀樹・助全日私幼研究機構研究
研修副委員長

▼グループディスカッション／各地
区から「研修会の取組事例」の発表
等

▼「震災記録映像」について／田中

雅道・助全日私幼研究機構理事長

○2日目
▼「震災記録映像」について／田中

雅道・助全日私幼研究機構理事長

▼講演（ワークショップ）「記述的
エピソード法を用いた園内研修の試
み」／今村光章・岐阜大学教育学部
准教授

安家周一副理事長のあいさつで閉
会となりました。

去る1月24日・25日、京都市の京

都ガーデンパレスにおいて、助全日
私幼研究機構の「平成24年度全国研
究研修担当者会議」が開催され、全
国から119人の研究研修担当者の
先生方が出席されました。会議の概
要は次のとおりです。

○1日目

▼報告「研究研修委員会の取り組み」
について／安達譲・助全日私幼研究
機構研究研修委員長
▼記念講演「育ち合う保育臨床～親
と子の心を支える保育実践」につい
て／肥後功一・島根大学理事・副学

長

▼シンポジウム「総断研究のスター
ト」について／パネリスト…河邊貴
子・聖心女子大学教授、東重満・助
全日私幼研究機構総断研究チーム座
長、平林祥・助全日私幼研究機構総
断研究チーム、コーディネーター…



▶記念講演の肥後功一先生



▶シンポジウム パネリストの先生方



▶ワークショップの今村光章先生



私立幼稚園施設整備費補助について

25年度予算額（案） 2,505百万円（うち耐震化 2,394百万円）

24年度補正予算額（案） 1,510百万円（うち耐震化 472百万円）

24年度当初予算額 2,317百万円（うち耐震化 2,198百万円）

【概要】

- 緊急の課題である耐震化等防災安全対策の推進とともに、屋外環境整備、幼児急増・定員増に伴う新增築に係る緊急整備及びエコ改修事業への補助に必要な予算を確保しています。

国庫補助率は、原則として1／3以内であるが、地震による倒壊等の危険性が高い（Is値0.3未満）施設の耐震補強工事は、引き続き1／2以内に嵩上げ。

※ また、認定こども園（幼稚園型への移行を予定する幼稚園を含む）の施設整備などを行う「安心こども基金」については、経済危機対応・地域活性化予備費（経済対策第2弾）において、136億円を積み増すとともに、事業実施期限を平成25年度末まで延長。

私立幼稚園施設整備費補助事業の募集について

（平成24年度当初予算分及び補正予算分、平成25年度当初予算分事業）

文部科学省では、平成24年度補正予算案及び25年度予算案が閣議決定したことを受け、このたび、本補助について、都道府県を通じて事業の募集を開始しました。

今回の募集においては、これまで耐震化事業（地震による倒壊の危険性が高い園舎の補強工事等）を優先するため、採択が困難であった新增築、エコ改修、屋外環境整備等の事業についても、24年度補正予算案において10億円程度の予算額が確保できました。25年度予算案において、耐震化事業以外は1億円程度となっておりますので、24年度補正予算事業として積極的な取組みをお願いします。（事業の完了が25年度となる場合についても応募可能です。）

また、今回の補正予算案の成立に伴い「平成24年度補正予算案における制度改善について」とおり、融資制度の改善充実による設置者負担の軽減、補助制度の要件緩和等が認められることとなっております。当該要件緩和等は、时限措置となっているものもありますので、この機会に事業の前倒し等積極的な取組みをお願いします。

1. 今回の募集と平成25年度予算案の概要

（1）事業の主な内容

① 耐震補強工事

園舎の耐震指標等の状況に応じ、柱、壁、梁等の補強や増設等を行う「耐震補強工事」、天井材等の「非構造部材の耐震対策化」、備蓄倉庫等の整備等の「防災機能強化」の実施（1園当たり400万円以上の事業を対象とする。ただし、「非構造部材の耐震対策」または「防災機能強化」のみの場合にあっては事業費の下限を設けない。）

② 新築・増築・改築事業

幼稚園が未設置あるいは不足している市区町村において実施される園舎の「新築」及び「増築」、構造上危険な状態にある園舎及び耐震性のない園舎の「改築」

③ アスベスト対策工事

吹き付けアスベストの除去等を行う「アスベスト対策工事」（1園当たり400万円以上の事業を対象とする。ただし、平成24年度補正予算及び平成25年度予算においては事業費の下限を設けない。）

④ 屋外教育環境整備

屋外における教育環境整備のため実施する「屋外運動広場」「屋外集会施設」「屋外学習施設」の設置（1園当たり500万円以上の事業を対象とする。）

⑤ エコ改修等

既存施設のエコ改修事業や太陽光発電等の新エネルギー等導入事業（1園当たり400万円以上の事業を対象とする。ただし、平成24年度補正予算及び平成25年度予算においては200万円以上の事業を対象とする。）

（2）新築・増築・改築事業における補助単価（平成24年度及び平成25年度予算案）

鉄筋コンクリート造（R）	151,600円／m ²
木造（W）	151,600円／m ²
鉄骨造（S）	133,900円／m ²

2. 今後の事務処理日程（予定を含む）

平成25年2月20日・・・各都道府県からの事業計画一覧提出締切（※）

※事業計画の提出が遅れる場合は、その旨都道府県を通じてお知らせ願います。

2月 下旬・・・幼稚園別の事業計画提出依頼

3月上～中旬・・・幼稚園別の事業計画書提出締切

3月中旬以降・・・内定、交付決定（各事業の実施時期による）（※）

※本補助金は予算の成立に際し、繰越明許費として国会の議決を経る予定としており、事情により、工事の実施が平成25年度（例：夏期休業期間）となる場合などは、翌年度への繰越も可能となっています。

【参考】私立幼稚園施設の耐震化事業等への補助及び融資制度の概要

（下線部分は、平成24年度補正予算案における新規・拡充部分）

区分	耐震改修事業	耐震改築事業 (旧耐震基準の施設改築)	その他の改築	防災安全機能強化
国庫補助	1／3 (但しIs値0.3未満は1/2)	1／3 (但し安心こども基金による場合は1／2（※1）)		1／3 (Is値0.3未満の耐震改修と一体で行う防災対策は1/2)
日本立学校興・共済類団融資金利	<u>0.5%</u>	<u>0.5%</u>	1.5% (1/17現在)	<u>0.5%</u>
融資期間	20年(うち据置期間2年)	20年(うち据置期間2年)	20年(うち据置期間2年)	20年(うち据置期間2年)

平成24年度補正予算案における制度改善について

私立幼稚園施設の耐震化等防災安全対策に係る補助及び融資制度の改善充実

●学校法人負担の軽減、補助制度の改善による補助対象の拡大

- ・実施設計費の上限(1%)撤廃【恒久】
【恒久】H24補正予算からの恒久的措置
【時限】H24補正、H25予算の時限措置
- ・補助対象事業経費の上限の撤廃【平成27年度事業まで】
【耐震補強】 幼稚園:1億円⇒制限なし
- ・自家発電設備の単体整備の補助対象化
避難所の指定を受けた幼稚園の自家発電設備の単体整備を補助対象化(可搬式のものは除く)
(幼稚園:200万円以上・500万円以下【恒久】)
- ・補助対象事業経費の下限額の引き下げ【時限】

	下限額
耐震補強	400万円
非構造部材の耐震対策、防災機能強化 (備蓄倉庫、自家発電設備等)	300万円 ⇒制限なし 【恒久】
安全機能強化(アスベスト)	400万円 ⇒制限なし

●日本私立学校振興・共済事業団の行う長期低利融資制度の拡充等

<幼稚園>

- ・耐震化等防災安全機能強化に対する長期低利融資制度の創設(融資期間20年間、金利0.5%)
耐震補強、非構造部材の耐震対策、幼稚園の耐震改築(H27融資分まで)
防災機能(備蓄倉庫等)及び安全機能強化(アスベスト)事業(H25融資分まで)

<幼稚園>

- ・上記の長期低利融資の貸付条件の改善
【融資限度率の撤廃】耐震補強75%、耐震改築80% ⇒100%へ引き上げ
【担保査定額引き上げ】土地評価額×80%まで ⇒これに建物事業費×80%まで加算可と緩和
【資産査定額引き上げ】(総資産−総負債)×30%−事業団借入金 ⇒(総資産−総負債)×40%に緩和

私立幼稚園の教育基盤施設の整備に係る補助制度の改善充実

●学校法人負担の軽減、補助制度の改善による補助対象の拡大

- ・実施設計費の上限(1%)撤廃【恒久】
【恒久】H24補正予算からの恒久的措置
【時限】H24補正、H25予算の時限措置
- ・補助対象事業経費の下限額の引き下げ【時限】

	下限額
新築・増築、エコ改修、屋外教育環境整備	400万円 ⇒200万円

※上記に記載のないものについても下限額等に変更はありませんが、全ての補助メニューについて申請を受け付けます。



平成 24 年度「こどもがまんなか PROJECT」主な活動

平成 24 年度、「子どもの権利」「こどもと家族の健康」「国際的支援活動」「こどもがまんなか生活」「日本文化・地域文化の継承」「共生」の 6 つの柱を掲げ、現代の子どもたちをめぐる社会環境を考慮しつつ、今後の国の子育て支援策などを踏まえ活動を展開しました。

[5月]・東日本大震災・幼稚園記録ビデオ『いつもの幼稚園に戻ること』の制作協力 **共生**

[6月]・私立幼稚園生活を応援する Web サイト『こどもがまんなか PROJECT』をリニューアル。
プロジェクトの普及啓発活動

・第 7 回食育推進全国大会でブース出展／「こどもがまんなか PROJECT」の取組みについて紹介。「行事食」に関するアンケート調査に大人・子ども合わせて約 700 名にご協力をいただきました。
日本文化・地域文化の継承

[7月]・「こどもがまんなかとは？」アンケート調査の実施／保護者と教員の皆さんと共にする活動として『皆さんが感じ、考える「こどもがまんなか」とは、どんなことなのか』についてアンケートを実施。アンケートでは、「子どもの権利条約」についても言及し、「子どもの権利条約」についてどのくらい知っているか、などを調査しました。
子どもの権利

[9月]・朝日新聞（9月 5 日朝刊）に意見広告を掲載／紙面では、子どもの立場に立って“社会全体で子どもたちのことを考える「こどもがまんなか」の社会づくりを広く呼びかけました。広告掲載にあたっては、サポーター企業にご協力いただきました。
子どもの権利 **プロジェクトの普及啓発活動**

[10月]・募金箱を全国の園にご送付／「世界の子どもとお母さんの命を守る」ための国際的支援活動と東日本大震災支援活動を目的に、全国の園に募金箱を送付しました。
国際的支援活動 **共生**

・「世界の子どもとお母さんの命を守る」ための国際的支援活動に対する感謝状を受けました。
国際的支援活動

・「アール・ブリュット展」を開催／全日私幼連・設置者・園長全国研修大会の開催に合わせて「アール・ブリュット展」を開催。また、設置者・園長全国研修大会では、アール・ブリュットをテーマに、作品の魅力とその作家たちの「表現したい衝動」などについての特別講演が行なわれました。
共生

[11月]・「こどもがまんなか PROJECT」サポーター企業懇親会を開催／国や自治体、教育機関と一緒にになって「こどもがまんなか」を進めるために活動の担い手になろうとする企業が集まりました。
プロジェクトの普及啓発活動

[12月]・全日本私立幼稚園 P T A 連合会の第 27 回 P T A 全国大会で「こどもがまんなか PROJECT」の活動を紹介しました。
プロジェクトの普及啓発活動

通年・子どもと家族の健康と美を応援するセミナーの実施。
こどもと家族の健康

通年・『私幼時報』『P T A しんぶん』で活動内容を報告。
プロジェクトの普及啓発活動

編集後記

梅の香が風に
のる頃、また、年

長児が巣立つて

いきます。卒園

式で元気に歌う子どもたちの一人
ひとりの横顔に、3年間の姿が次々
と映しだされ涙が止まりません◆こ
の子らがこの先、すくすく育つてく
れると嬉しいものです。活躍すると
誇らしく、自慢でもあります。一方、苦労していると聞けば心配し、
悪いことをしているのなら、ガツン
と叱つてあげたいとも思います。結

あつても、まだまだ支援の手を止め
てはいけないのがこの大震災なので
す◆人は想い出の場所やそこにある
人を心の支えとして、いま行く道を
進むことができます。卒園児をずっと
と気にかけている私たちが少しでも
支えになつていいのなら嬉しいで
す。(調査広報編集委員・光安則子)

今後の会合予定

2月20日

全日私幼連 常任理事会(東京・私学会館)

3月5日

(財)全日私幼研究機構 理事会
(東京・私学会館)

3月6日

全日私幼連 団体長会・理事会合同会議
(東京・私学会館)
(財)全日私幼研究機構 評議員会
(東京・私学会館)

(財)全日私幼研究機構・賛助会員(幼児の保護者等)入会のお願い

「全日私幼連PTAしんぶん」をぜひご活用ください

(財)全日私幼研究機構では、平成25年度の賛助会員(幼児の保護者等)のご入会を受け付けております。賛助会員へのご入会は幼稚園でお取りまとめの上、都道府県団体を経由してお申し込みいただいております。

年間会費一口250円で、月刊紙(8月は休刊)としてPTAしんぶんを配布しております。入会申込書は各園にお送りしておりますが、本財団のホームページからのダウンロードもできます。

ぜひとも賛助会員へのお申し込みをご検討くださいますよう、よろしくお願ひ申しあげます。